

OPINION

中部経済新聞

エジプト・アラブ共和国の通商産業省のグリーン生産センター(ENCCPC)で資源効率・グリーン生産・グリーン部門の責任者、マイサラ・アフメッドです。

ENCCPCは、2005年に通産省の技術革新センター

ナヒゲーター

が中心となり設立され、産業界に各種の支援サービスを提供中です。国連工業開発機関(UNIDO)と密接な関係で、UNIDO/UNEP(国連環境計画)グローバルネットワークの一員として活動しています。スイス政府、オーストリア政府からも支援を受けています。

日本への期待 世界各地から

其 52

日本からの学びと提案

私の職務内容は、大きく七つに分類されます。

- 1 現在進行中の各種プロジェクトの管理。資源効率化に関連、グリーンで循環的な生産に関連、グリーン経済に関連するものです。
- 2 多様な支援提供者(ドナー)、利害関係者とともに資金提供の拡大や事業開発活動の統括。
- 3 関連プロジェクトについての技術的な提案や入札市場分析の準備。
- 4 事業の開発戦略の策定および展開をしつつ、新しいプロジェクトの機会を見つ

エジプトでのカイゼン普及に向けて

け、ENCCPC本部および通産省と優先順位をすり合わせ。

- 5 関連プロジェクトの展開を統括し、品質を保証し、必要なモニタリングと評価活動。
- 6 ラマダン10日市にあるグリーン起業および持続可能な開発センターの事業責任者(兼任)。
- 7 国内産業に資源効率化、グリーン生産、グリーン経済の分野でのコンサルティングを提供しつつ、教育訓練つまり研修を提供。

現在直面する課題は、大きく2区分できます。まず国レベルです。エジプトはアフリカ大陸の中で、産業面での要の位置をしめる国の一つであり、雇用の確保また持続可能な成長を継続するため、産業の転換が今後の繁栄へ向けて、極めて重要な一歩です。

新しい発展モデルをいま探求することが、新型コロナウィルス感染症の拡大によって加速されています。ギア・シフトして、国内産業の4・0化および農業分野での4・0化の分野で競争できる能力を高める必要があります。

次いで、私の所属する組織の課題です。通産省は現在、組織構造を再編成し、より効率的なものにするための取り組みの最中にあります。この取り組みには、リーム中産連から学んだカイゼンを適用することが、非常に役立ちます。

参加した研修から学んだことの中で特に印象的だったのは、日本で何かを習得するときの三つの概念、「道」、「場」、「型」があるということです。まず哲学があり、それを道場のような場所で、具体的なカタチとして身につけるといえるものです。大局的にものを考える場合、5W2H、QCDSMETHSM、5次元でのカイゼンなどさまざまなツールを適用できること、ま

日本が今後経済成長を維持するためには、直面する重要な課題として、労働参加率を向上させることだと考えますがどうでしょうか。このために三つの取り組みがあります。出生数の減少に歯止めをかけるための対策、女性の活躍推進、そして入国審査制度の改正です。このような対応を期待します。

【マイサラ・アフメッド、リーム中産連】(月曜日掲載)